

Iターンで

自分だけの味に挑戦!



段々に色づく「アイコ」

新天地で美味しいトマトを

白鷹町中山地区でトマトを栽培している宮部壮司（みやべ たけし）さんは、福岡県出身のIターン就農者だ。農業とは縁のない環境で育った宮部さんは、学生時代の農業体験を通じて農業に興味を持った。大学卒業後は東京でサラリーマンとして働いていたが、30歳になったタイミングで農業を始めようと一念発起し「新・農業人フェア」に参加。東京から遠すぎず涼しい土地柄に魅力を感じ、山形県のブースに足を運んだ。そこでトマトを作っている研修先を紹介されたことが、白鷹町に移住するきっかけとなった。トマトを選んだ理由は、作り方によって味の違いがはつきりと出るからだ。

白鷹町に移住して2年間は、先輩農家のもとで研修を受け、トマト栽培のノウハウを学んだ。その後独立して農業を始めたが、独立1年目は思うようにはいかず、1人で農業をすることの大変さを痛感すると同時に、学びの多い1年間になった。

苦労しながら始まった農業生活も、今年で6年目。トマトを中心にいろいろな作物の栽培に挑戦しながら、白鷹町での生活を楽しくしている。地域の人との交流を通して、同じように頑張る仲間もできた。

宮部さんの農業を始めた頃からの目標は、白鷹で1番美味しいトマトを作ること。おいしさを第一に考え、日々試行錯誤を重ねている。

新・農業人フェアって？

東京・大阪の2都市で毎年複数回開催される農業情報イベント。毎年多くの自治体・農業法人が参加し、就農相談会を行っている。農業法人や先輩農業者に直接相談ができる数少ない場所だ。「農業に興味がある」「農業を仕事にしたい」という方は是非ご参加を！今年度はコロナウイルス感染対策としてオンラインでの出展も行っている。



オンライン出展の様子（白鷹町）

I ターンで新規就農を考えている人へのアドバイス

まずはやってみよう

興味があるなら軽い気持ちで体験してみる。

研修などの試せる場はたくさんあるため飛び込んでほしい！

人とのつながりを大切に

地域の人は気かけ、受け入れてくれる。

困ったこと・わからないことがあったら地域の人を頼ってみよう！

地域の活動や行事にも積極的に参加してみよう！

頑張りがその分成果としてあらわれる

作物は手を掛ければ掛けるほど美味しくなる。そこにやりがいを感じられる。

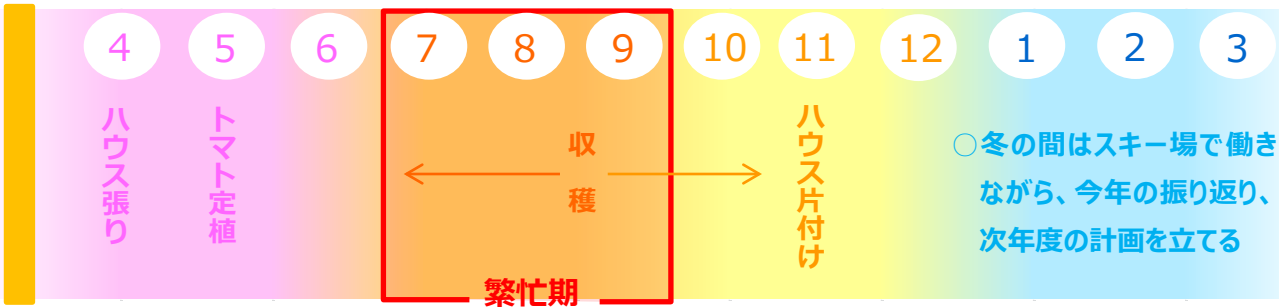
食べてくれた人に「おいしい」と言ってもらえると、本当にうれしい！



先輩移住者としてイベントにも参加



宮部さんの年間スケジュール



トマトのほか、米、キャベツ、クキタチ、コマツナ、ブロッコリー、ナメコなど…
1年を通していろいろな作物に挑戦中。どりいむ農園直売所（白鷹町）で販売している。



宮部さんが栽培しているトマトの品種紹介

フルティカ…糖度が7～8度で、重さが40g～50gほどのミディトマト。
中玉品種で最高レベルの甘さ。

アイコ…サカタのタネという種苗メーカーが2004年に開発した品種。
果肉が厚くてゼリーが少ないのが特徴の、プラム型のミニトマト。

プチぷよ…宮城県の渡辺採種場が2008年に開発した品種。
糖度が高くトマトの風味に富んで食味は抜群なミニトマト。



「フルティカ」



ミニトマト(小玉トマト)
重さ40g未滿
例:アイコ、プチぷよ



ミディトマト(中玉トマト)
重さ40g～150g
例:フルティカ、レッドオーレ



大玉トマト
重さ150g以上
例:ファースト、桃太郎